

# オリーブの会通信

2012年7月4日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会  
〒760-0078 高松市今里町一丁目 499-2  
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)  
<http://khj-olive.com/>



## 第121回月例会ご案内

日 時	2012年7月22日(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~)
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 研修室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容	13:30~13:40 報告・連絡 ・運営委員会の報告他(川井) 13:40~15:00 学習会 「無条件の肯定的関心が基本」 講師 KHJ徳島県つばめの会副会長 臨床心理士 浅田みちる氏 (質疑応答あり) 15:00~15:15 休憩 15:15~16:30 小グループに分かれての話し合い
参 加 費	・会員 1家族 1,000円 ・非会員 1家族 1,500円

夏至も過ぎ本格的な夏もすぐそこまで近づいてきましたが、会員の皆様にはお元気で

お過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、NOP法人KHJ香川県オリーブの会では、先月17日に法人化4周年記念講演会を会員ら多数の出席を得て無事終了することが出来ました。講演会の内容は、これからのオリーブの会の活動にあたって大変意義のあるものとなりました。その概要は次のとおりです。

- 1 と き 平成24年6月17日(日)13時30分～16時30分
- 2 ところ 高松市番町一丁目10番35号  
香川県社会福祉総合センター 7階 第二中会議室
- 3 出席者 40名(来賓4名、会員31名、一般5名)
- 4 概 要

(1) 挨拶

ア 川井富枝理事長

オリーブの会は平成14年6月に設立フォーラムが開催され、同20年4月に法人化しました。この間、池田代表、境先生をはじめ、多くの方々のご支援とご協力を頂きながら今日に至っています。

現在も引きこもり問題は、家族だけで解決することが難しい状況にあります。今後は、行政機関を始め各機関との連携やご協力を得ながら諸課題に取り組んでまいります。

イ 田尾寿夫香川県健康福祉部障害福祉課長

県では、昨年の6月に引きこもり地域支援センターを開設して当事者や家族の相談に当たっています。今までに542件の相談が寄せられました。今後は同センターが保健所や関係機関との連携を蜜にしながら引きこもり対策を総合的に推進してまいります。

ウ 山本博司参議院議員(メツメッセージ～代読)

国では、平成24年3月16日の参議院予算委員会において、引きこもり支援についての認識と取り組みについて質問をしました。引きこもり者へのアウトリーチの強化や各種取り組みを強化していく旨の前向きな答弁を引き出すことが出来ました。

今、政治は混迷の時を迎えていますが、国民の目線で現場第一主義を基本としてご家族を支援してまいります。

エ 来賓紹介

- 都築信行香川県議会議員
- 春田敬司高松市議会議員
- 藤田順子香川県引きこもり地域支援センター長代理

## (2) 講演会概略

一部「危機をチャンスにするには」「国の引きこもり施策の動向」について

講師 NPO法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）代表

一般社団法人 SCSカウンセリング研究所長

池田 佳世氏

### 1 はじめに

引きこもりの回復は本人一人では出来ない。親の力、行政の力、地域の力の援助がないと回復に至らない。また、引きこもりの回復についてはあまり知られていない。ただ、香川県は東京に比べて行政が手を差し伸べてくれていることにうれしく思う。引きこもり者数は潜在的にたくさんいるのではないか。それは、秋田県の人口



3700人位、世帯数が1500戸位の町で、社協の方が戸別に高齢者宅を訪問した際、引きこもりの方を探したところ、18歳～55歳まで100人以上いたということからも明らかです。最近では、引きこもり者のかかわる大きな事件は無いが、これは家族会の存在が非常に大きな役割を果たしている。家族会では、「何でも話せ、ホットできる」ので、親戚以上の集まりとなっており、現在、全国には支部が40支部あります。

### 2 国の動向

「障害者基本法」では、長い引きこもりの場合、強迫神経症や神経症の病気になることもあり、精神科にて病名を付けてもらえることとなる。

「心の健康基本法」では、署名運動を行って73万人分の署名を国会に提出して法制化を目指している。この法律の中には、引きこもりも入っており、KHJの名前と各支部の名前を入れてもらい、市民運動としていきたい。国会内の超党派で話し合っているので、法制化されれば、私たちの未来は良くなると思っている。

### 3 全国大会

平成24年9月8日から同9月9日まで京都大会が開かれる。当事者は、アルバイトをしても生活保護費より少ないという「貧困」をテーマに話し合う予定となっている。また、シンポジウムでは国の方向性や居場所のあり方、就労の成否などを討議することとなっている。子供たちが元気で生活ができるよう若い人のために皆で京都に行きましょう。

### 4 親の学習会の全国展開

親の学習会は、関東地区で10年間実施した結果を踏まえ全国展開する。昨年は、香川県が先頭でやっていただき、広島、宮崎で実施、今年は、高知、徳島、姫路、大阪、福岡、山口、広島（2回目）、岡山、京都、名古屋、新潟、岩手と回る予定である。

学習会では、「自立とは」、人とのコミュニケーションや関係付けをすることであり、

一人で自立すると孤立することとなるので、自分はどう思うかが大事となります。

(1) 「引きこもりの危機とは」

- 「自殺」～引きこもりの危機は「自殺」です。本人から死ぬと言われると対応に困る。「かまってくれない」「死にたい」といった場合は、「どうして」と聞いて、「死ぬ（自殺）」を止めてください・
- 「食事を取らなくなるとき」～生きていけるのか心配する。親の作ったものを食べない。30歳でご飯を食べなくなり相談に来られて、何とか、乗り越えられた。
- 「暴力・暴言」～親の具合が悪くなり母親が入院すると子供は見舞いに来た。その時、精神科を受診させることが出来た。
- 「10年から20年と長引いていること」～長引いている場合は病気の方に向くが自分で何か出来る方向へのタイミングを作る。
- 「話を全くしないこと」

(2) 「良い子＝ためている子が出した結果」

良い子がためていることを出した結果が危機（暴言暴力）となっている。暴言暴力は人がいないとやらない。親は子供と距離を置く。危機の時は逃げる。1時間もすれば落ち着くこととなる。

我慢強いのは民族性によるもの、我慢しすぎると精神病になる場合もある、幼少から我慢しなさいと言われてきたのが切れて、暴言暴力に行くのは、反面、エネルギーが出てきた現われであるので、これをチャンスの方へと向けて行くタイミングと捉える。

(3) 「チャンスにするか悪くするかは親の態度」

親が変化するのが先です。子供のためなら変われるし、乗り越えられ、一回り大きな大人になれるのです。

事例としては、お母さんが資格を取るために勉強を始めたところ、子供も変わり、勉強して大学に入ったというものです。

- 「居場所に来る」～人間の限界を親が教える
- 「父親の定年」～明日が定年と言う。経済力は低くなるが年金も在るから食べるには困らない。
- 「お小遣いをあげる」～毎月まとめて与える。自分でやりくりする。ちょっとの我慢ができる。経済力も身につく。
- 「親がすぐに対応する」～動けるか否かが回復の成否となる。
- 「家族の死」～子供たちは皆、お通夜、遺体安置所でのローソクの火を絶やさない。葬儀のバイトは可能か。
  
- 「お寺大好き」～草抜きのバイトをやる。一人でやる子もいるが人と人との繋げてくださいますと言っている。最初の働き場所には適しているのかも。

- 「従兄弟」～結婚式は大嫌いだが、事実は伝え、チャンスにしてください。
- (4) 「チャンスにすると一段階回復に向かう」
  - 「言葉の訓練」～家の中で「察すること」を止める。何か食べたいときは「言葉」を出すように、自分の気持ちを伝える。すると暴力暴言も少なくなる。
  - 「居場所に出てくる」～動かない子はお母さんが居場所でボランティアをする。人の子のためにやると自分の子のためになる。  
居場所での帰るタイミングは、トイレといって短い時間で引き上げる。最期まで居た場合は次回は出られない。
- (5) 「その時の親の態度とは」
  - 「親は考えないで動くこと」失敗しても動く。動くチャンスに巡り合うので迷わないで動くことです。
  - 「タイミングよくすぐ行動すること」周りの人間を巻き込む。「助けて」と言う。一人でやらないで家族でやる。
  - 「自分の危機はチャンスにできるもの」失敗を恐れず勇気を持って実行することです。

## 5 最後に

「自分の危機をチャンスにした」というテーマで、参加者同志（前後席）が5分ずつ話し、一方は口を挟まないで聴くだけというワークを行い終了となりました。

## 二部 「ひきこもりと生活機能の現状と必要な支援」について

講師 徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

准教授 境 泉 洋 氏

1 これまでの調査から、引きこもり状態と精神疾患の関連が明らかにされつつありますが、引きこもりが長期化することによってもたらされる生活上の支障を、全般的に把握する視点として生活機能に着目した。



生活機能は、生活全般の領域において生じている支障を把握する概念である。

こうした視点から調査を行うことで、精神疾患に限らない、引きこもり状態にある人が生活上、どのような支障を抱いているか。

2 引きこもりの方は、病気が治癒しても、引きこもりが回復するものではない。

病気以外でいろんな問題が起こっていることが特徴であり、それが問題である。

3 「調査」は、9回目（9年目）で、2003年から家族会の協力を得て継続実施できている。報告書は、500部印刷配布しているが、すぐなくなってしまう。

是非読んで頂きたい。

4 「調査回答」は、今回、28支部の家族の方から371名の回答、引きこもり経験者100名以上の回答があり、貴重なものとなっている

- 5 「年齢」は、親の会の平均年齢では父親 64 歳、母親 60 歳となり、当事者年齢も上昇していたが、今年は前年より 0.1 歳下がって 31.5 歳（初現象）となった。
- 6 「親に対する調査」（当事者の年齢が下がったと考えられる要因）
- 「当事者が 30 歳を超える」と親の会に来なくなるのではないか、親の会のやっつてることに魅力を感じなくなる。親に体力、根気が無くなり来れなくなる。10 年以上という引きこもりが長すぎて親も頑張りきれなくなる。などの要因が考えられる。
- 7 「生活機能障害の調査項目」は、1000 項目を越えたが、40 項目位にまとめた。
- 「心身障害」～精神機能が 60 パーセント以上、学習能力、コミュニケーション能力に 3～4 割が支障を感じている。
  - 「対人関係」～3 分の 2 の親は子供の支障を感じている。よく知らない人、公的な場での人との関係が難しい。
  - 「就労」8 割の子供が難しい。「周囲の理解」困難を感じている。
- 8 「当事者に対する調査」
- 親が思っているように子供は思っていない。かなりずれていることがわかった。
- 「106 人が回答」当事者 100 人以上の回答は極めて貴重なもの。
  - 「心身機能」精神機能に支障有、「発声・発語」45 パーセント位が支障を感じている。人として「言葉・声を出す」ことに意味がある。
  - 「自由記述」生活支障面～体力の衰え、筋力、運動不足で困っている子がいる。就労・経済面で困っている。
- 9 「支援」 がんばって欲しいと思う前に大事なことは「楽しむこと」である。
- 「楽しめる活動」一人でゆったり過ごすこと（今の状態）、パソコンのゲームやインターネット（心が無の状態）、スポーツ観戦、居場所での子供同士のコミュニケーション、一緒に楽しむことで心のゆとり、テンションが上がり動きやすい。
  - スポーツではゴルフ、武術、サッカー、ドライブ、野球、など。
  - 他者との交流（気の合う仲間との交流に関わりたい）、読書、ゲーム、つり、スキルの取得（英会話、料理）、動物とのふれあい。
  - 楽しむ活動を充分やることでやる気が出てがんばれるので仕事になる。
  - 「出来そうな仕事」黙々とできるもの、自分の症状と合うもの、残業が少ない、職種ではパソコンのデータ入力、タッチタイピング、パソコン修理
  - 「趣味を生かした仕事」ものを書く、音楽家、翻訳、スポーツ選手、鉄道運転手。
  - 「人と接することを生かした仕事」居酒屋、古本屋の店員、ラインの決まった仕事、軽作業。
  - 「何かの指導者」合気道、PC 教室、トレーナー、農業、漁業、アパート管理（家賃収入で暮らしたい）、配達業、介護の仕事。

○ 「出ていない仕事」工事など体力勝負のもの。

10 これまでの考え方と全く逆の考え

これまでは引きこもり者の出来ないことに注目していたが、今後はできることに注目したい。出来ることを増やして行き、問題を克服しながら続けていくことが大事。

11 今取り組んでいる活動（徳島県受託事業：ひきこもり支援対策調査研究事業）

「引きこもり当事者とその家族の支援」のプログラムを作っている。

6回プログラム（本人向け）{楽しむ→がんばる 元気になる→仕事}

8回プログラム（家族向け）「親と子の信頼関係→励ます 受容共感」

・訪問支援・35歳以上の方（本人向け）のグループカウンセリングなど。

12 提案

「兄弟姉妹の会」を設けたい。賛否両論あるが、親の会に参加している兄弟の方は、将来何か出来ることがあれば何かしたい、知っておきたい思いもある。

行政は親亡きあと兄弟姉妹を捜すと思う。当事者は兄弟姉妹の世話になりたくないと思っている。

親の代わりをしてもらうのではなく、周囲の理解者を増やす視点からも「兄弟姉妹の会」を設けてはどうかと感じている。

京都の全国大会で提案をしたいと思っている。

13 最後に「兄弟姉妹の会」について

参加者から賛同の意見はあったが、反対意見は出なかった。

以上

☆**クレヨンの会** が香川県小豆総合事務所のご支援のもと発足。

この会は、発達障害の児童、ちょっと気になる子どもをもつ親の会です。

子どもの気になることを一人で悩まないで、話しあってみませんか！

会の名称の意味：発達障害の人は個性が強いので、それをカラーとして自分らしい色で自分の世界を自由に描いて欲しい。（親御さんの一人が願いを込めて付けられたそうです。）

活 動	月1回 親の会開催（5月より活動）
場 所	香川県小豆総合事務所
時 間	午後1時30分～3時30分



【7月居場所活動予定】

内 容	日	曜日	時 間	担 当
第3回運営委員会	1	日	13:30～	川井
個人カウンセリング（松田先生）	14	土	9:00～	川井
ポパイの会 ボウリング予定 *13:30 居場所へ集合→太洋ボウル	8	日	13:30～	森下

\*太洋ボウルホームページ [http://www.k-bowling.jp/top/taivo/taivo\\_top.html](http://www.k-bowling.jp/top/taivo/taivo_top.html)

\*ゲーム料金：1ゲーム450円×2ゲーム \*靴料金：300円

なお、13:50頃 居場所出発 14:30～ゲーム開始（個人負担）

\*申込先：川井携帯（090-4332-3288）親子で参加しませんか！見学のみもOK。

【8月居場所活動予定】

内 容	日	曜日	時 間	担 当
第4回運営委員会	5	日	13:30～	川井
個人カウンセリング（松田先生）	11	土	9:00～	加藤
ポパイの会 パソコン教室（予定）	12	日	13:30～	森下

次回【122回 月例会予定】

日 時	2012年8月26日（日）10:30～受付 11:00～12:00
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 第1研修室
内 容	ワークショップ（指導 香川大学 竹森先生）参加申込要（川井）
日 時	2012年8月26日（日）13:00～受付 13:30～16:30
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 第1,2研修室
内 容	SAD（社交不安障害）勉強会 予定 講師：未定

【会 議のお知らせ】

会 議	平成24年度第1回香川県ひきこもり対策連絡協議会
日 時	2012年7月3日（火）13:30～16:30
場 所	香川県高松合同庁舎 4階 第2会議室
会 議	KHJ四国ブロック会議
日 時	2012年7月29日（日）13:30～16:30
場 所	沖洲マリンターミナル とくしま県民活動プラザ

以 上